

令和4年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 1) 教育の質的転換に関する事業、(5) 地域への文化発信の拠点となる取り組み

申請組織 国際コミュニケーション学部

申請組織長 役職名 教授 氏名 田所光男

統括責任者 役職名 教授 氏名 堀田あけみ

課題名 地域・高校と連携した学生のアウトプット活動の支援プログラム

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	堀田あけみ	国際コミュニケーション学部 教授	文学賞
		広瀬正浩	国際コミュニケーション学部 教授	文学賞

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200字～300字程度で記述)

授業以外の場で、自分達の表現を発信したいという学生の要求に応じて、アウトプット活動を支援するプロジェクトを始めて既に10年を超え、創作を志向する学生達の間では定着していると言える。授業で得た学びを、実践という形に昇華させること、また継続による、先輩から後輩への教育力の育成といったメリットをより充実させることが、本事業の主な目的である。しかし、教育力の面について、近年衰えが見られると感じられていたものが、今年度、表面化した印象がある。対策については、以下の項目で述べる。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300字程度で記述)

文学賞・フリーペーパーの企画・運営から始める。今までの活動を参照し、今年度の締め切り・応募方法・審査員構成等、学生達が主体となって、先輩から後輩へ伝える形で進行する。教員が参入するのは、ジャーナルによる全学生への告知、及び、文学賞での椋山高校・中学への参加依頼のみである。作品が集まってからは、審査員（教員・学生）への審査依頼と、ブックデザイン、印刷会社との打ち合わせ・交渉が必要であるが、これらも学生が行う。広報事業でも毎年、注目されるのが、実務を担当するのが全て学生だという点である。これが、本事業の大きな特徴となる。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

今年度も幾つかの企画が出されたが、実現したのは文学賞のみであった。遠隔期間があつて、一度途絶えた対面コミュニケーションによる、先輩から後輩への教育の機能の回復は困難であると思われた。学生達の話し合つて企画を出す能力は低下していると考えられる。例年通り、椛山高校にも参加を打診したが、今年度も昨年度に続き、応募はなかった。例年、高校生のレベルの高い作品が入賞し、書籍化されているので来年度こそは高校生からの応募の復活が望まれる。高校での入賞者が国際コミュニケーション学部に入り、編集委員になった例も過去には多い。内容については、一定数の作品が集まり、レベルの高い作品集を今年も作成することができた。

昨年度の成果物は、オープンキャンパスや説明会における学外へのアピールといった機会には恵まなかったものの、学生控室に置かれたものは、地味に年間減り続けた。来年度以降も学内での頒布に力を入れていきたい。今年度はオープンキャンパスでの配布も控えたが、来年度は再開したい。親世代への影響が肌で感じられるからである。

対外的にも機会があればアピールしているが、今年度はこちらの機会は乏しかった。しかし、少ない機会でも、好感を持って受け止められている。学生の実践力を養うと同時に、対外的な魅力にもなっているこの活動が、きちんと評価される機会が来年度は十分に与えられることを願っている。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①編集	②出版	③創作	④文学
⑤アウトプット	⑥教育	⑦デザイン	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

近年、実現できた企画が文学賞だけだという状況が続いているのが残念である。コロナの影響で、学生の生活や動線が変わっているので、そこを配慮したアフターコロナの活動が、今後は必要になるであろう。

最も大きな課題は、年々、先輩から後輩への引き継ぎが、うまく機能しなくなっている点である。教員によるテコ入れをする必要があると感じ、何度か介入を試みたが難航した。学生達にとっては、先輩から引きついで行くのが一つのアイデンティティらしく、教員の介入を避けたがるようにも見える。教員の介入は、自分たちの世代が先輩より劣っていることの印であると感じているようでもある。しかし、今年度は明らかに心が折れたと思われることが何度もあった。

来年こそは、と言う気持ちもあるようだが、書籍作成のあらゆる面において、能力が落ちていることは否めない。併設校の成績上位者がバトンをつなげていた時代と同じフォーマットでは動かないことを、まず現場に理解させる必要がある。来年度も続けることができれば、創作の授業をもっと密接に関係させることを考えている。それを、新学部につなげていきたい。